

現代神学 第8回
オンデマンド動画 第4回

終末論

小原 克博

1

Overview

1. 終末論とは
2. 終末論の具現としての「神の国」
3. 終末論の変遷
4. 現代における終末論の展開
5. 今回の課題

2

1

終末論とは

3

終末論のテーマ

- ・ 多くの宗教が、広い意味での終末論的テーマに関わっている。
- ・ ホモ・サピエンスは自らの「死」を考える。
- ・ 「脱出」願望——空間的な脱出、時間的な脱出（後述）
- ・ キリスト教では、イエスが語る「神の国」が重要なテーマとされてきた。

4

2

終末論の具現としての「神の国」

5

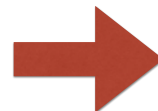
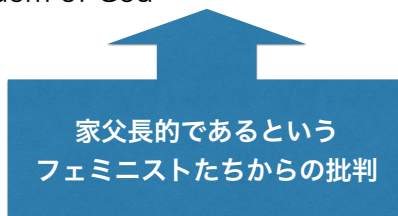
「神の国」とは何か？

- ・ 「神の国」はイエスのメッセージの本質的部分と考えられてきた。
- ・ 「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」(マルコ1:15)
- ・ イエスは、間近に迫った「神の国」の到来を宣べ伝える黙示文学的預言者として説明されてきたが、近年、異なる理解もある(後述)。
- ・ 20世紀における「神の国」
- ・ ナショナリズムとの結合(→リーディング・アサインメント)

6

「神の国」の言語学的位置づけ

- ・ 「バシレイア・トゥー・テウー」
- ・ 支配→「神の支配」、支配領域→「神の国」
- ・ Kingdom of God



Dominion of God
Reign of God
新しい概念の模索

7

「神の国」の現在性と未来性

「しかし、わたしが神の霊で悪霊を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに来ているのだ」(マタイ14:25)

「神の国は、見える形では来ない。『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ」(ルカ17:20-21)



「はっきり言っておく。神の国で新たに飲むその日まで、ぶどうの実から作ったものを飲むことはもう決してあるまい」(マタイ26:29)

8

3

終末論の変遷

9

終末論の起源と系譜

- ・ 神学の起源としての終末論：**イエス再臨の遅延**に対する思索
- ・ 「移動」「脱出」への欲求
- ・ **グノーシス主義**において：「この世」→「天上世界」（空間的な移動）
- ・ 個人的終末論の系譜（永遠の生命、死後生としての天国）
- ・ **黙示文学**において：「古い世」→「新しい世」（時間的な移動）
- ・ 宇宙的終末論の系譜（世界の終わり、最後の審判）

10

終末論の論点

- ・ 「今すでに」と「いまだなお」の間の緊張関係
- ・ A. シュバイツァー「徹底的終末論」：黙示文学的預言者としてのイエスの発見
- ・ J. モルトマン、W. パネンベルク（1960年代）
 - ・ 黙示文学的終末論の再評価、終末論の**社会的次元**の回復
 - ・ モルトマン『希望の神学—キリスト教的終末論の基礎づけと帰結の研究』
- ・ 解放の神学、黒人神学などにおける終末論の再評価
- ・ 終末論の**社会変革的次元**の強調

11

近年の聖書学の成果

- ・ 切迫した神の国の到来を史的イエスに帰することが自明ではなくなってきた。
- ・ 神の国の切迫性は、イエス伝承の編集者に遡るという理解
- ・ 神の国の非黙示文学的解釈の台頭。
- ・ J.D.クロッサンは現代的で「知恵志向的」（sapiential）、かつ貧農を中心とする神の国運動にイエスを位置づける。知恵の教師イエス。

12

4

現代における終末論の展開

13

終末論の現代的展開の事例

- ・ オウムによる地下鉄サリン事件（1995年）以降、異常な行動を正当化してしまう異常な世界観として終末論がクローズアップされた。
- ・ オウムは基督教の終末論（特に「ヨハネ黙示録」）を利用していた。
- ・ IS等、宗教的過激思想の台頭と世界各地からそれに加わる人々の流れ
- ・ **カタストロフィー願望**（耐え難い日常からの脱出）の増大

14

終末論のポジティブな側面

- ・ 「個」の確立
- ・ 自ら責任を負う「個」としての人間を発見する。「個」の強度を育む。
- ・ 社会の現実に対する批判的視座
- ・ **社会変革的次元**へのいざない（解放の神学等）
- ・ 内村鑑三の**非戦論**：再臨思想に支えられていた。



15

終末論のネガティブな側面

- ・ 最終的な責任を自分以外の権威者や集団にゆだねてしまう（自分で考えない）。
- ・ なぜ、高度な教育を受けた者たちが、オウム流の終末論のとりこになってしまったのか？

16

世俗化した終末論



- ・ 「しっかり勉強しないと、よい学校に入れない。よい学校に入れないと、よい就職ができない」といった人生行路が親から子に伝授される。
- ・ 親や教師は、子（生徒）の人生を先取りし、将来を预言する、現代の「预言者」である。

17

なぜ「終わり」を求めるのか？

- ・ 「終わりのない日常」から脱するため
- ・ 終わりが無い ≠ 先が見えない
- ・ 先が見えすぎる社会 = 均質性の高い社会、学歴社会
- ・ カタストロフィー願望の増大と多様化
- ・ 宗教的過激思想の拡散

18

「終わり」の視点

- ・ 「『わたしがそれだ』と言って、多くの人を惑わすだろう。戦争の騒ぎや戦争のうわさを聞いても、慌ててはいけない。そういうことは起こるに決まっているが、まだ世の終わりではない」（マルコ13:6-7）。
- ・ 虚偽の「終わり」に抵抗し、多様かつ豊穡な「終わり」（生きる目的）の視点を獲得していく必要性。

19

【参考文献】

- ・ 芦名定道・小原克博『キリスト教と現代——終末思想の歴史的展開』世界思想社、2001年。
- ・ ジョン・ドミニク・クロッサン『イエス——あるユダヤ人貧農の革命的生涯』（太田修司訳）新教出版社、1998年。
- ・ ユルゲン・モルトマン『希望の神学——キリスト教的終末論の基礎づけと帰結の研究』（高尾利数訳）新教出版社、1978年。
- ・ ユルゲン・モルトマン『神の到来——キリスト教的終末論』（蓮見和男訳）新教出版社、1996年。
- ・ リフトン、ロバート・J『終末と救済の幻想——オウム真理教とは何か』（渡辺学訳）岩波書店、2000年。

20

5 今回の課題（600～800字）

1. 以下のリーディング・アサインメントを読んでください。

- ・ 「終末論」、小原克博『一神教とは何か——キリスト教、ユダヤ教、イスラームを知るために』平凡社新書、2018年、77-91頁。
- ・ 「日本における「神の国」」、芦名定道、小原克博『キリスト教と現代——終末思想の歴史的展開』世界思想社、2001年、170-177頁。

2. 上記の内容と今回の講義の中で、あなたの印象に残った（重要であると思った）点（複数可）を、その理由と共に述べてください。